

クローズアップ NGO・NPO

ワールドファミリー基金

フェアトレードから「自立を支援する」資金援助の活動へ

1986年10月にILCA（インターナショナルリビングクラフト アソシエーション）を、昨今定着した言葉では「フェアトレード」を行う有限会社として始めました。数人の友人たちが、働きながらできる国際協力のボランティア活動としました。

めざすことは、富んだ者が貧しい者に金銭をあげる寄付の形でなく、自立しようとしている人々と対等の立場で長期的に支援することでした。学校、教会、地域のバザーやコンサートなどの催しで、また通信販売で「買うことも支援！ 売ることも支援！」と呼びかけて活動してきました。

フェアトレードの活動を続けるうちに、グループを作り他国で売れる物を生み出せる人々よりも、より厳しい状況に置かれている人々も、たくさんいることがわかってきました。そのような人々の役に立ちたい、「そのような人々への支援こそ、私たちができること」と1991年に設立したのがワールドファミリー基金（WFF）でした。

■ 「より小さな一歩への支援」 ■ WFFのしくみは？

ILCAのメンバーが訪問したインドで、アンタッチャブル（不可触賤民）の自立支援をしているシャーマ博士の「あなたも家族、彼らも家族、私たちはワールドファミリーなのです」と温かい微笑とともに発せられた言葉から命名しました。手をつないでいるマークやキャッチコピー「身近にできる海外協力—あなたの支援が自立に役立ち

ます—」「毎月500円の海外協力。あなたも始めてみませんか！」を考えて、パンフレットを作製しました。

しくみは、会員の募集と募金活動で支援金をまとめ、それらを現地のNGOが最も必要としているプロジェクトに支援することとしました。支援の枠組みとしては①自立をめざすプロジェクト ②教育活動のプロジェクト ③地域開発・環境保全のプロジェクトに決めました。1回の支援金は概ね10万円として、不足分は自分たちで補う、必ず報告書を作成し、それには領収書や報告の写真を付けてもらうといったルールも決めました。

ILCAの活動を通して援助を求める手紙や声はいくつも届いていましたが、それらの信ぴょう性を判断するのはとても難しいことでした。そこで支援先は、青年海外協力隊の方からの紹介や、栃木県のアジア学院（途上国の農村指導者の養成専門学校）の卒業生、友人・知人の関係しているグループに絞られてきました。

■ WFFの主な支援先は？

1991年から友人のR.フォスターさんが運営するフィリピンのPSHF（フィリピン自立援助基金）を応援しています。小額ローンを個人またはグループに貸し付けるプロジェクトです。2012年度は1個人と2グループに支援しました。

①ベダ・ラグラスさん：デング熱にかかった娘の医療費のために質に入れた水田の1/4を取り戻すためのローン申請。②サンミゲル・マハヤグ・

ファーマーズ：女性3人男性1人の農民グループ。田植え期に借りていた耕作用の水牛（カラバオ）を購入する資金の申請。③カニテ小規模企業グループ：家族グループでそれぞれが事業を始める、または維持するためのローン申請です。



フィリピンPSHF小額ローン支援を受けたカニテ小規模企業グループの皆さん

22年間で約80の小さなプロジェクトのローン申請を支援しました。2001年にはスタディツアーを行い、フィリピンの島々のいくつかのプロジェクトを訪問しました。



カラのプロジェクトでマリ共和国タファラン村の女性野菜園に完成した浅井戸

マリ共和国では、砂漠化の進む西アフリカの農村に住む人たちが自らの意志と力で自立できるように、カラ＝西アフリカ農村自立協力会がさまざまなプロジェクトを進めています。

1993年から継続支援しています。2012年度はタファラン村女性野菜園の浅井戸2基の改修工事を支援しました。水不足のためさらに10m深く掘り下げるための費用で、クーデターの影響で工事は遅れたようですが、完成の報告（領収書と写真付き）を受けました。

数年前のことですが、毎年10万円ずつ5年間の支援の後「自分たちでやっていきます」と力強く卒業していったグループもありました。ケニアの「キデュタニ女性プロジェクト」で、簡単に説明すると「仔牛を900ドルで購入し、1日12ℓのミルクをしぼる。2ℓは仔牛に3ℓは5歳以下の子供に与え、残りの7ℓを月96ドルで販売し、現金収入を得ていく」というものでした。

ほかにはインドのSEEDSの「鶏小屋プロジェクト」、ザンビアのエキュメニカル開発基金の所得向上のための職業訓練（養蜂や洋裁、木工技術など）支援。ネパールの児童福祉計画のストリートチルドレンの職業訓練センターへの支援、国内で

はアジア学院にも1994年から毎年支援をしています。これまで17か国46のグループのいろいろなプロジェクトに、総額3,277万3,974円の支援金を送ることができました。



インドSEEDSの鶏小屋プロジェクトでは不可触賤民の13家族が鶏小屋とひよこの配付を受け、飼育を始めました

国内事業と今後は？

毎年4月第1土曜日には、「WFFチャリティお花見バザー」を1993年から開催しています。支援金を得ると同時に、現地のグループを紹介し、自立援助活動を、近隣やお花見に来た方々に広く知らせていくことが目的です。日比谷でのグローバルフェスタにも欠かさず第1回から参加しています。



WFF第22期総会出席の方々

理事会を年5回開催し、申請のあったプロジェクト一つを話し合い、支援するかどうかを決めてきました。現地のことは、私たちの生活からは余りにかけ離れているので、想像をたくましくして意見を出し合い、それでもわからないことは、質問をすることになっています。そのようにして100名余りの会員数で23年の歩みを続けています。

働きながら、子育てしながら、そして昨今は介護をしながら、「私たちができること」を続けてきました。現地からの支援の申請や報告から、多くを学ばせていただきました。私たちは、東京の安全で便利な、何でもある生活に忙しく毎日をごしています。でも心のすみではいつも「自立のために一步を踏み出そう」としている人々を覚えていますし、彼らから元気をもらえることに感謝をしています。